



# みどりの風

平成30年7月号 在籍児童数474名

## 学校教育目標

- 自ら考えのびる子
- 思いやりのある子
- 進んで体をきたえる子

## 地域で深まる学び

校長 大島 薫

梅雨の晴れ間の空の青さがまぶしく感じられます。子どもたちはプール学習で日焼けし、たくましくなってきました。5年生は長野県志賀高原での林間学校に向けて準備を始めています。体育館脇の古代蓮や1年生の朝顔、2年生のミニトマトは日ごとに成長しています。夏休みが待ち遠しい季節になりました。

さて、3年生は社会科の授業で、白岡市について学習しています。先日地元の方から篠津のお祭りの山車(だし)を見せて頂き、その後お囃子のしめ太鼓をたたく体験をさせていただきました。地域から学ぶフィールドワークは、教室での学習と実社会の様子を結びつける大切な学習方法です。普段ぼんやりと見ていた光景が、授業での学習を経て新たな意味を持ちます。篠津のお祭りについて地域の皆様からご指導をいただき、実際にお囃子の太鼓をたたくことで、教室で学習した知識が実生活と結びつきます。

今、全国の小学校は転換期を迎えています。2020年に全面実施となる新学習指導要領(学校のカリキュラム編成のもととなるもの)では、「社会に開かれた教育課程の編成」が求められています。篠津小はこれまでも地域の皆様のご協力により「豊かな体験活動」を推進してきました。

子どもたちが地域で獲得した知識や経験と、学校の教科・領域で獲得する知識や経験が相互に作用したとき、さらに深い学びができます。先の3年生の体験活動では、全員がお囃子体験をした後、特別に、地域でお囃子の練習をしている子たちだけで演奏しました。篠津の5地区(上宿、横宿、宿、下宿、神山)のそれぞれのリズムで子どもたちがしめ太鼓をたたき、地元の方が即興で篠笛を合わせてくださいました。心温まるお囃子の音色に、篠津小の子どもたちが地域の皆様に愛され、育てられていることを改めて実感しました。



7月は、1学期のまとめの月です。これまでの学習の成果を確認しつつ、学校での学習がさらに深い学びとなるように、教職員一同指導方法の工夫改善に取り組んでまいります。そして、これから迎える夏休みで、子どもたちが保護者や地域の皆様とともに過ごす時間を通して、豊かな体験をし、さらに学びを深めることができますことを願っております。今後ともご支援ご協力をよろしくお願いいたします。